

<雪印メグミルク株式会社>

平成28年3月期決算説明会 主な質疑応答

実施日：2016年5月12日（木）

出席者：代表取締役社長 西尾 啓治、取締役専務執行役員 世古 康

Q 1：現在の営業利益率（2.4%）について、どうお考えですか。

また、次期中期経営計画の中でこの営業利益率をどのようにしようとお考えですか。

A 1：今の営業利益率は決して満足できるレベルにはないということは重々承知しています。ただ、これまでブレーキとなっていた飲料・デザート類セグメントにおける事業構造改革は現中期経営計画の中で着実に進んできており、この1年間で40億円の利益改善を達成できたことは大きいと考えています。今後もヨーグルトを中心に売上、収益の拡大を進め、このセグメントの黒字を拡大していくことが重要と考えています。現在推進中の中期経営計画の中で、資本提携も含め、確実にグループのバリューチェーンを強化してきましたので、それを次期中期経営計画の中で、ストレッチをかけてシナジーを発揮していこうというのが大きな考え方になります。具体的な数値は、ご容赦願いたいのですが、少しでも上のレベルになるようにしたいと考えており、今後期待していただきたい。

Q 2：業績予想の連結営業利益の増減要因の「製品構成差」25億円は、どんな内容ですか。

A 2：セグメント別の内訳は、乳製品4億円、飲料・デザート類21億円であり、飲料・デザート類セグメントの占める割合が高くなっています。新商品を含め、利益率の高い商品の投入による増分利益がこの項目に含まれています。1ライン増設した「ガセリ菌SP株ヨーグルト ドリンクタイプ」の影響が大きく、加えて色物飲料における新商品「ボトラッテ」の利益の増分、改善が含まれています。

Q 3：輸入チーズの価格相場は下落傾向、為替相場は円高傾向にある中、業績予想の連結営業利益の増減要因の「資材単価差等」が減益項目になっているのはどうしてですか。

A 3：輸入チーズの価格相場は、下落していますが、一部の原料、例えば果汁などで価格相場が上昇しており、その影響を見込んでいます。また、為替相場においては、予算策定時には円高局面ではなかったことから、足元の円高については、業績予想には織り込んでおらず、予算を1ドル（USD）120円で策定したため、減益項目となりました。

Q 4：最近の米ドルに対する円高の影響は、収支上どのように影響が出てきますか。

A 4：円高は収支にプラスに働きます。為替感応度は、1円の円高で1.5億円の利益増加となります。原材料は在庫もあることから、平成28年度の下期くらいから少しずつ効果が出てくるのではないかと考えています。

Q 5：平成28年度において、ヨーグルトの売上の伸びが減速しているように見えますが、何か理由があるのですか。

A 5：平成27年度は4月にヨーグルトについて幅広い対象商品の値上げを実施しましたが、平成28年度はこの影響額を織り込んでいないのが理由の一つです。また、すべての商品の売り上げを伸ばすということではなく、プロダクトミックスの改善に取り組みながら、伸長を目指しているということをご理解願います。

Q 6 : 平成 2 7 年度の第 4 四半期 (1 ~ 3 月) におけるプロセスチーズの売上が前期比で減収になっていますが、どうしてですか。

A 6 : 第 4 四半期は、チーズの需要が最も落ちる時期です。また、年末 (12 月末) の在庫をどのように持つかということでの売上 (当社からの出荷) は左右されます。特にプロセスチーズは賞味期限が長いので在庫として抱えることができるため、ナチュラルチーズよりその影響は大きくなります。このような理由から、前期と比較し売上が下回っているように見えますが、メーカー出荷レベルであり、実販売 (卸店から小売店への販売) レベルでみると前年並みに推移しています。

Q 7 : 次期中期経営計画における経営目標を利益の絶対額だけでなく、利益率、キャッシュフロー、株主還元等の数値目標に変える可能性があるか否かについて教えてください。

A 7 : 定量的な目標については、他社様において、いろいろな指標を盛り込んでいるというのには理解しており、当社グループにおいても、これからいろいろな形で検討していきたいと考えています。

Q 8 : 「ガセリ菌 S P 株ヨーグルト ドリンクタイプ」について、市場の今後の拡大をどのように見込んでいますか。また、実際の市場の伸長率はどれくらいですか。

A 8 : 健康志向の高まりに加えて、食べるタイプに比べて非常に簡単に摂取できるという簡便性もあり、すべてのヨーグルトのカテゴリーの中で、ドリンクヨーグルトは、平成 2 7 年度に最も伸長率が高いカテゴリーであります。今後数年間、ヨーグルト市場の中でドリンクタイプが引き続き、最大の伸長カテゴリーであろうと期待をしていますし、見通しを持っています。

平成 2 7 年度におけるヨーグルト全体の市場伸長率は、1 1 1 % であり、その中でドリンクタイプの市場伸長率は 1 2 2 % です。

注意 : 皆様にご理解いただきやすくするために一部編集しています。